

海外議員派遣報告書

(カンピーナス市、サンパウロ市、リオデジャネイロ市)



岐阜市議会議員 松原和生



(姉妹都市カンピーナスの市役所玄関にて)

＜本会議の承認を受けた海外議員派遣の内容＞

6月26日、岐阜市議会本会議において、およそ以下の内容で海外議員派遣の承認を受けました。

「カンピーナス市との姉妹都市提携30周年記念式典に出席し、市役所を表敬訪問、徹明小学校・藍川中学校の姉妹校などを視察することにより、両市の親交を深め、国際親善に寄与する。サンパウロ市では、県主催の岐阜県人ブラジル移住100周年・県人会創立75周年記念式典を初めとする行事に出席し、交流を図るとともに、ブラジル三井物産（株）他を視察する。リオデジャネイロ市では、国際規模の大会開催に向けたまちづくりの状況を視察する。」



（6月定例会本会議、海外議員派遣を承認）

＜米国経由で空路ブラジル連邦共和国へ＞

中部国際空港から、デトロイト、アトランタを経由し、2日かかり（機中2泊）で、3市のあるブラジル連邦共和国に入国しました。

時差はマイナス12時間で、時計の針の向きは日本と全く同じです。私たちは、東京オリンピック招致バッジを、9月の開催地最終選考会を目前に、全員が襟元に付けています…。



（中部国際空港からデルタ航空で米国経由）



（東京オリンピック招致バッジを胸に）

リオデジャネイロ市（リオデジャネイロ州）の概要

◆ 人 口	6 3 2 万人
◆ 面 積	1 2 6 0 k m ²
◆ 時 差	マイナス 1 2 時間
◆ その他	日本では神戸市と姉妹都市提携

- ブラジル連邦共和国で、サンパウロ市に次ぐ第2の大都市である。
- 1 9 6 0 年にブラジルに遷都されるまでは、ブラジルの首都であった。
- リオのカーニバルやコパカバーナ海岸、コルコバードのキリスト像など、ブラジル有数の観光都市でもある。
- 2 0 1 6 年の第 3 1 回夏季オリンピック開催地（南アメリカ大陸で初）で、準備に向けたまちづくりが急ピッチで進んでいる。

＜リオデジャネイロ市役所においてレクチャー＞

都心部に位置するリオデジャネイロ市役所を訪問。市のジョゼ・カルロス・フェレイラ・デ・サ観光局長と、女性の国際担当リーダーから、当方が手配した専門の通訳（ツアーガイドでは行政の通訳は無理とのこと…）を介して、詳しく説明を伺いました。

岐阜市議会事務局から、外務省経由で、在リオデジャネイロ日本国総領事館を通して、事前に通知してあった調査項目は「国際規模の大会開催に向けたまちづくり」についてです。具体的には、① 2 0 1 6 年オリンピック開催に向けた都市整備、② 国際的な大会開催を契機とした観光振興策、③ 国際大会への市民の関わり方・ボランティア等についてです。



（市街地にあるリオデジャネイロ市役所）



（市役所内の会議室でレクチャー）

説明に先立って、リオデジャネイロ市の概要などについて、ひと通りの紹介がありました。

最初に、2016年オリンピック開催に向けた都市整備についてです。



まず来年（2014年）に迫ったFIFA（サッカー）ワールドカップ・ブラジル大会は、12の州で開催され、リオデジャネイロ市では決勝戦だけが実施のため、既存の都市施設で対応するとのことでした。尚、案内誘導などのソフト面は、世界中から1日に8万人が集うリオのカーニバルでの経験を活かして、万全を期したいということです。

（地図を差しながら説明するジョゼ局長）

3年後（2016年）となるオリンピックは、全てがリオデジャネイロ市での開催であり、準備工事が急ピッチで行われています。選手村や主会場は、郊外に設けられる計画で、都心部や空港と結ぶ交通アクセスが重要となり、基幹道路の建設や公共交通システムの新設が進められています。公共交通は、地下鉄の建設（2路線→4路線）のほか、岐阜市でも展開しつつあるBRT（バス・ラピッド・トランジット）4路線を設置することを計画の柱に据えています。観客や関係者の滞在するホテルや商業施設を集約するエリアの開発も計画され、客室数については、現在3万2千室（五輪決定時は2万1千室）であるのを、本番までに4万室に増やします。補助金を出して4500室が着工中。また、世界3大港湾都市の一つと称される港を活かし、宿泊できる大型客船を世界から集合させることで、オリンピック後に余剰施設となることを避ける工夫を考えています。

国際的な大会開催を契機とした観光振興策については、オリンピック開催期間に観客や関係者が集まるのは当然で、リピーターとなるよう精一杯のもてなしをすることとした上で、世界中から注目される2度とないPRのチャンスであり、オリンピックで投下される巨額の予算によるまちづくりで好印象が広がるよう努め、その結果、一過性では無い、継続的な観光客の増加に繋がるよう、ロンドン（前オリンピック開催地）のアイデアも勉強しながら、効果的な施策を鋭意検討中とのことでした。その結果、増加したホテルなどを余剰施設としないことは、行政の責任だと言われました。

国際大会への市民の関わり方・ボランティアについては、去年のぎふ清流国体・ぎふ清流大会での市民の姿をイメージしながら質問しましたが、話が若干かみ合わず、逆に日本の事例を参考にしたいとコメントされなが

ら、ブラジルはボランティア精神の旺盛な国柄なので、市民主導で上手に盛り上がっていくよう呼びかけたいという話でした。

背広の襟元に付けた、東京オリンピック招致のバッジから、半月後に迫った、次期開催地最終選考会の話となり、激励の言葉を頂戴しました。選考されれば、リオデジャネイロの次が東京です。岐阜市としても、事前合宿の誘致などの可能性があり、その点についても追加で尋ねましたが、現時点での動きは少なく、事前合宿の多くは周辺都市の話になりそうなので、残念ながら分からないという話でした。



(ジョゼ観光局長、国際担当リーダー、専門通訳と)

＜開発計画エリア～一部供用開始のBRT等を現地視察＞

午後からは、説明を受けた開発計画エリアの様子、新交通システム（BRT＝専用道路を走る連節バス）の一部供用開始区間などを現地視察しました。

開発計画エリアからは、撤退した石川島播磨重工業（現：IHI）の工場跡が見えました。海外の報道などでは、準備の遅れが心配（その反省からIOC委員の間で東京が有利）とも言われていますが、この開発計画エ



(硬い岩盤を貫通させてアクセスの整備)



(ホテル・商業の開発エリアは未着工部分も)

リアの整備もあまり進んでおらず、少し心配になりました。ツアーガイドによると、本番までに出来上がれば良いというのが、ブラジル人の気質なので、大丈夫だと言っています。

固い岩山を貫通させてのトンネル工事や、アクセス道路の工事が各所で行われていて、その影響も相まって会場方面の道路は大渋滞です。一部供用開始中のBRTでは、連節バスが道路中央に設けられたバス専用道をスイスイと走り、バス停は駅舎のようになっていました。言わばレールの無い鉄道といった姿であり、岐阜市の目指す総合交通体系の良い参考になりました。ちなみにブラジルは連節バス発祥の国ということです。

尚、事業（主にW杯）に多額の費用がかかることから、国民負担増への反対で発生していた大規模なデモは、何とか収まっているという話です。



（アクセスの柱、連節バス専用道と駅舎。道路にはBRTの文字）



（連節バスが専用道路を、レールの無い鉄道のごとく走る）

カンピーナス市（サンパウロ州）の概要

- ◆人 口 1 0 9 万人
- ◆面 積 7 9 6 k m²
- ◆時 差 マイナス 1 2 時間
- ◆姉妹都市提携は 1 9 8 2 年（昭和 5 7 年）

- ブラジルの中南部で、サンパウロ市の北西 1 1 0 Km に位置する。
- 「カンピーナス」が現地の言葉で「平原」を意味するとおり、広大な平原都市である。
- カンピーナス大学など 2 つの総合大学と、優れた研究施設やリサーチセンターを有する。
- 岐阜市市民参画部国際課ホームページの姉妹都市カンピーナス市に関する紹介=<http://www.city.gifu.lg.jp/4952.htm>

<リオ・ブランコ学園視察>

早朝からカンピーナス市へと移動。ドイツ経由（地球を逆回り）で到着した細江市長、市民参画部長など岐阜市代表团 5 名と、昼過ぎに合流しました。この先、移動日を除いて、最終日の午前中まで同一行動です。

午後から、岐阜市立の徹明小学校及び藍川中学校と姉妹校提携（姉妹都市提携と同年に開始）を結ぶ、リオ・ブランコ学園を訪問しました。郊外にある、幼・小・中・高一貫教育の、伝統ある私立学校です。

同学園の教育コーディネーター（日本でいう校長）のエドガルド・ボーン氏の案内で、幅広い学年の授業を参観し、安全面に配慮された教育施設の状況などを視察。また、学校教育の考え方などについて意見を交換しました。

徹明小学校と藍川中学校の各校長から預かった、児童・生徒の書道・絵画・版画などの作品を、細江市長と徹明小学校卒業生の松原から手渡しました。「さっそく校内に展示して、子ども達に見せたい」という話です。



（リオ・ブランコ学園の正門）

「最近では、姉妹校の交流が必ずしも盛んとは言えない状況だったが、これを交流活発化の契機にしたい…」と教育コーディネーターから話があり、岐阜市代表団の市民参画部長から、帰国後に各校長へと伝えました。



(徹明小と藍川中の児童生徒の作品を手渡す)



(学校施設と子どもたちの授業の様子)



(エドガード教育コーディネーターと)



＜カンピーナス日伯文化協会との交流会＞

カンピーナス日伯文化協会主催の交流会が、同協会が所有する会館の大ホールで盛大に開催されました。カンピーナス市長の代理で、市の文化スポーツ局長も出席です。

- 安永博道 カンピーナス日伯文化協会会長
- 花田忠義 同 第一副会長
- 矢嶋靖弘 同 元会長（現：岐阜市駐在員）
- オルデマール・エリ阿斯 カンピーナス市文化スポーツ局長
- ベアトリス・グスマウ カンピーナス市国際協力局課長

その他、約70名の会員日系人の皆様が参加されました。

食事は、女性会員の手作り料理で、現地料理に加え、里芋や大根の煮物、味噌汁などの和食も用意されています。うずら卵とプチトマトで日の丸を形どった盛り付けには感激です。

同協会は、カンピーナス市を中心とする日系人組織で、日系人間の親睦、日本文化の伝承、岐阜市との友好推進などを主な目的に活動しています。

会場の窓側には、岐阜市との姉妹都市提携30年間の交流の様子が、記録写真を中心に、何枚ものボードで展示されていました。訪日団が伊奈波神社を参拝した様子や、勇退した元市議の若き日の姿なども写っています。

談笑は時間一杯まで続き、岐阜市との姉妹都市交流を実際に支えてこられた方々と、有意義な交流が図れたと思います。



（カンピーナス日伯文化協会の皆様方と）



(カンピーナス市文化スポーツ局長、国際局課長、日伯文化協会会長、岐阜市長)



(会場に集合した約70名の日系人の皆さん)



(日の丸の盛り付け、日系人の奥様方が用意された手料理での懇親会)



(里芋の煮物や味噌汁などの和食も用意される)



(会場の横には、30年間の姉妹都市交流の様子をボードに展示)



(会場はカンピーナス日伯文化協会の所有する会館)

＜姉妹都市提携30周年記念式典～昼食会～市内＞

都会的なイメージのカンピーナス市役所の玄関や、1階ロビーの様子などを見て歩いた後、市役所の大会議室で行われた、岐阜市との姉妹都市提携30周年記念式典に出席しました。

- ジョナス・ドニゼッテ カンピーナス市長
- カンポス・フィリオ カンピーナス市議会議長
- ジェラルド・ムッシ ブラジル前駐日大使
- 安永博道 カンピーナス日伯文化協会会長
- 花田忠義 同 第一副会長
- 岩崎 透 同 評議員（東山農場社長）
- 矢嶋靖弘 同 元会長（現：岐阜市駐在員）

その他、関係者と現地の報道機関も集まっています。

カンピーナス市のドニゼッテ市長とフィリオ議長、細江市長他が挨拶し、記念品を交換。一層の交流促進を目指す覚書にサインを交わしました。



（ドニゼッテ・カンピーナス市長が挨拶）



（細江茂光岐阜市長が挨拶）



（記念品を交換＝岐阜提灯）



（交流を促進する覚書にサインを交わす）

「今回の岐阜市からの訪問は、両市の関係を一層深める貴重な機会となった。両市は、高齢化社会など共通する課題を抱えており、今後も様々な場面で知恵を出し合える関係でありたいと思っている。お互いにプラスである大切な交流を、この先の30年間も続けましょう。」(＝ドニゼッテ市長)

「3回目の訪問になる。30年前の提携以来、文化、経済、教育、スポーツなど様々な分野で交流を進めてきた。グローバル化が進む中、自治体外交は大変重要である。この友好的で相互補完的な関係を今後も続けていきたい。ドニゼッテ市長の近い将来の来岐を期待します。」(＝細江市長)



(カンピーナス市役所の玄関前にて)

式典終了後、ドニゼッテ市長、フィレオ議長らと一緒に、バスで記念昼食会に向かいました。会場は、スラム街の貧困層に食事を安く提供する市の食堂施設で、料理は1リアル（約40円）の日替りセットです。私たちの訪問に合わせ、日本をテーマとした展示や飾り付けが施されていました。食堂施設では、一般の市民も食事中で、カンピーナス市民の日常の姿に接することが出来ました。



(食堂施設で昼食をとる市民)



(1リアルのランチで昼食会)



(日の丸に平和の鉢巻き)

午後からは、ブラジル有数というカンピーナス大学を訪問し、大学構内を視察。副学長、教授会長、日系の教授陣の皆さんと懇談しました。学生数は学部生と研究生を合わせて約4万人（留学生は約5%）。2003年から岐阜大学と相互で「エネルギー・環境・持続的発展に関する国際ワークショップ」を開催しているとのこと。



（カンピーナス大学の概要説明）



（副学長・日系教授陣と学内視察）

夕刻からは、夕食会場（和食店）にもなった大規模ショッピングモールの賑わいなど、市内の様子を視察しました。

姉妹都市の中で最も遠くに位置するカンピーナス市は、BRICs（ブリックス）の一角を占めるブラジルにあって、都市と自然が調和した豊かな中核都市として、順調に成長を続けているものだと実感しました。



（大規模ショッピングモールには和食店も）

サンパウロ市（サンパウロ州）の概要

- ◆人 口 1 1 3 2 万人
- ◆面 積 1 5 2 3 k m²
- ◆時 差 マイナス 1 2 時間
- ◆その他 日本では大阪市と姉妹都市提携

- 市街地には高層ビル、郊外には多くの工場が立ち並ぶ、南アメリカ大陸最大の都市である。
- 標高約 7 6 0 m の高原都市で、当初は奥地開発の拠点として発展を遂げてきた。
- 約 1 0 0 万人の日系ブラジル人が在住。数百社の日本企業が進出している。日本語による新聞も発行されている。日本人街（リベルダーヂ）は、中国人、韓国人の増加から、東洋人街と改名された。

< 岐阜県人ブラジル移住 1 0 0 周年・

岐阜県人会創立 7 5 周年記念式典 >

前日（移動日）の内にサンパウロ市へと移り、この日だけは終日、岐阜県訪問団のメンバーとして行動です。

9 時から、市内のブラジル広島県人会館大ホールで、岐阜県人ブラジル移住 1 0 0 周年・岐阜県人会創立 7 5 周年記念式典に出席しました。岐阜県副知事（知事代理）、岐阜県議会議長、関市長、関市議会議長、美濃加茂市長他も一緒に参加しています。

- 高杉優弘 在ブラジル日本国大使館公使
- 園田昭憲 ブラジル日本都道府県人会連合会会長
- ジュンジ・アベ ブラジル国連邦下院議員（日系人）
- ジョウジ・ハトウ サンパウロ市議会議員（日系人）
- 山田彦次 ブラジル岐阜県人会会長
- 高原 剛 岐阜県副知事（岐阜県知事代理）
- 渡辺 真 岐阜県議会議長
- 松尾浩平 岐阜県警本部警視（岐阜県警本部長代理）
- 尾関健治 関市長
- 藤井浩人 美濃加茂市長
- 杉山幹夫 岐阜新聞社会長
- 川島和夫 岐阜さくらの会会長

その他、訪問団として岐阜県議会議員 5 名・関市議会議員・民間の関係者、

ブラジル側から岐阜県人会会員、来賓など約200名が出席です。

式典に先立ち、まず冒頭に、先亡者追悼法要が執り行われ、私たちも黒いネクタイに締め直し、数珠を手にして、順次焼香しました。

続いて式典では、日伯両国歌の斉唱の後、山田ブラジル岐阜県人会会長が挨拶。高原岐阜県副知事、渡辺岐阜県議会議長他と訪問団を代表する立場で細江市長が挨拶をしました。



(ブラジル仏教会の読経の中を順次焼香)



(ブラジル岐阜県人会・山田会長の挨拶)

「故郷を思い出し、日本人としての誇りを忘れないため、ブラジルに県人会が組織されてから創立75周年という大きな節目を迎えることが出来た。ここに岐阜県の代表団を迎えて、盛大に記念式典を行えることは大きな喜びであり、会員一同を代表して深く感謝する。」(＝山田県人会会長)

「郷里からの親善訪問団を代表し、今日までの日伯関係を支えてこられた岐阜県移住者のご努力に深く敬意を表します。皆様方のブラジルでの活躍ぶりを岐阜県人として誇りに思います。日本とブラジルの絆は切っても切れないものであり、この機会を日伯関係を再認識する良い機会だと捉え、今後のより一層の協調関係を願っています。」(＝細江市長)

関係者の挨拶が続いた後、岐阜県知事表彰、同感謝状贈呈などが行なわれました。



(訪問団を代表して挨拶する細江市長)



(岐阜県知事代理の副知事から感謝状)

引き続き同会場で開催された祝賀会では、岐阜県出身のソプラノ歌手・山田香織さんの「日本の故郷を歌う」と題したミニコンサートがあり、ラストに唱歌「ふるさと」を参加者全員で3番まで合唱する中、県人会の皆さんが声を震わせ、遠い故郷を偲んで瞳を濡らす横顔を見て、私たちもこみ上げてくるものがありました。



(県出身ソプラノ歌手の唱歌ふるさに涙)



(関市長、美濃加茂市長と同じテーブル)

＜イビラプエラ公園の開拓先没者慰霊碑と日本館視察＞

昼食会の後は、バスで、市内のイビラプエラ公園にある開拓先没者慰霊碑と日本館を訪れました。

イビラプエラ公園は、岐阜市で例えると岐阜公園のような、広く市民に親しまれている公園です。慰霊碑前には、訪問団を代表して、岐阜県副知事と岐阜県議会議長の名前で、お花が供えられています。全体が小高く盛り上がった場所になっていて、裏に回ると地下への入り口があり、その中に常設の焼香場が設けられていました。私たちも記帳して、順に手を合わせました。

(開拓先没者慰霊碑に岐阜県から供花)



(記帳をして地下の焼香台に入り合掌)

日本館は、日本の文化や風俗を紹介する施設で、立派な数寄屋造りの建物で、日本庭園があり、池には錦鯉が泳いでいます。一般のブラジル人には、東洋文化を味わう観光施設としても人気があるそうです。県の関係者より少し先に到着したので、館長の案内で、詳しく説明を伺いながら、館内を視察することが出来ました。

季節が逆なので、庭園の回りには、ちょうど桜の花が咲いています。日系人の誇りと故郷への思いの深さを感じます。

日本館の近くで見つけた句碑の「ふるさとの 信濃のくにのやま川は ころろにしみて とわにおもわむ」の句は移民の作で、当時の人々の、尽きることのない望郷の思いが、ここにも偲ばれます。



(数寄屋造りの日本館には池や庭園も)



(日本館館長の説明で館内を視察)



(季節が逆で、日本館の周りは桜が満開)



(ころろにしみて とわにおもわむ…)

＜ブラジル岐阜県人会主催歓迎夕食会＞

夜は、ブラジル岐阜県人会主催の歓迎夕食会が開催され、記念式典の出席者を中心に約70名が参加しました。山田県人会長の挨拶のあと、細江市長が乾杯の音頭を取り、県人会関係者と岐阜県からの訪問団との間で交流を深めました。料理は、ブラジル名物のシュラスコで、鉄串に牛肉や豚肉や鶏肉を刺し、じっくりと焼いた肉料理で、ウェイターが串ごと客席に運んで、目の前で切り落とすという方式です。断らないと何度でも持ってきて、まるで肉のわんこそば状態です。

偶然、近くの席になった、ブラジル人のご主人が名古屋大学に留学中に出会い、ブラジルに嫁いだという日本女性や、岐阜市に親戚があって訪れたことがあるという日系2世などから、色々な話題を本音で聞くことが出来て、交流の良い機会となりました。



(歓迎夕食会 山田県人会会長挨拶)



(ブラジル郷土料理のシュラスコ＝肉料理)

＜ブラジル三井物産（株）でレクチャー＞

最終日の午前は、ブラジル三井物産（株）サンパウロ本店を訪問し、「発展著しいブラジル経済と日本企業の状況」について、準備いただいたレジュメに沿って説明を受けました。

- 藤井 晋介 ブラジル三井物産株式会社社長
- 矢部 健太郎 同 取締役 業務・人事部長

話を伺う藤井社長（兼三井物産執行役員）は、在ブラジル日本商工会議所会頭でもあり、基礎情報、主要経済指標、政治・経済・外交の動向、日本企業の状況等を、ポイントを押さえ、生の裏話も交えながらレクチャーいただきました。BRICsの一角として目覚ましい成長を遂げてきたブラジルの状況が大変良く分かりました。藤井社長は三井物産では、細江市

長（三井物産出身）より10年程後輩になるそうです。

※在ブラジル日本商工会議所会頭でもあるブラジル三井物産（株）社長への訪問・視察は、私たちが勉強のために強く希望して、三井物産OBである細江市長に調整を依頼したものです。

<資料別添>



（藤井社長はブラジル日本商工会議所会頭）



（ブラジル経済と日本企業の状況をレク）



（ブラジルきってのオフィス街、ビルのセキュリティは万全）



（社員は120名、うち15名がリオデジャネイロ勤務）

＜全行程を終えて帰路へ＞

サンパウロ空港からデトロイト空港に移動し、トランジットのため空港ロビーで7時間の待ち時間です。

合計で30時間以上かかる帰路ですが、移動日の空き時間にサンパウロの「ブラジル日本移民資料館」で見てきた、笠戸丸やぶらじる丸でサントス港まで50日以上かかった苦労や、昔のNHK橋田壽賀子ドラマ「ハルとナツ 届かなかった手紙」（ブラジル移民家族のドラマ）を思い出すと、飛行機で2日間で帰れることを有り難いと思わなければいけません。

写真は「ブラジル日本移民資料館」の展示より。初期の移民が、奴隷の代わりのように働かされたり、マラリアなどの風土病に倒れたり、第二次世界大戦で敵国民扱いされたり…、苦難の歴史も改めて知りました。

今回のブラジル3都市で学んだ経験を、今後の岐阜市の国際親善とまちづくりの中で、しっかり活かしていきたいと思います。



（ブラジル日本移民資料館の展示より）



（デトロイト空港ロビーで7時間の待ち時間…）